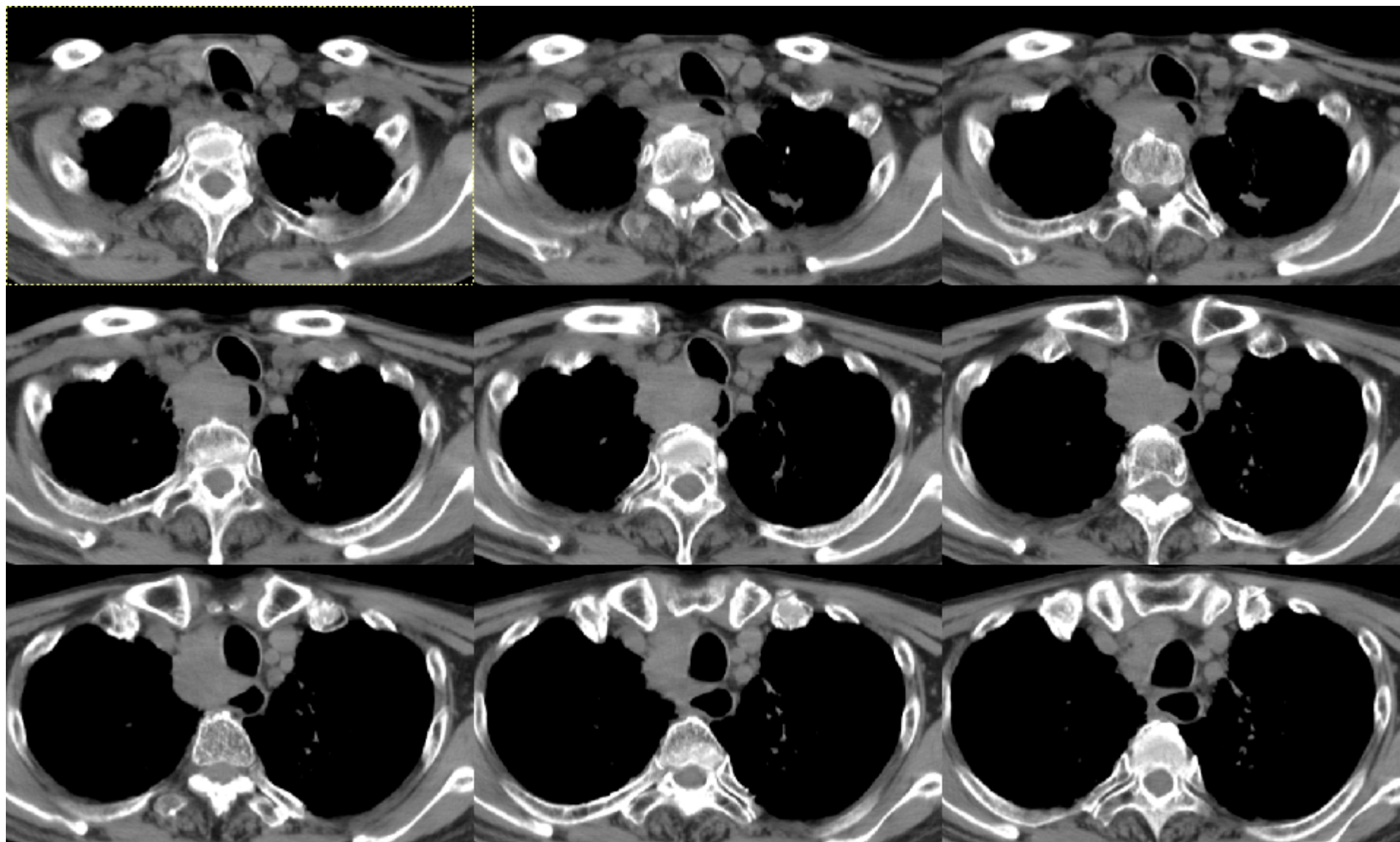


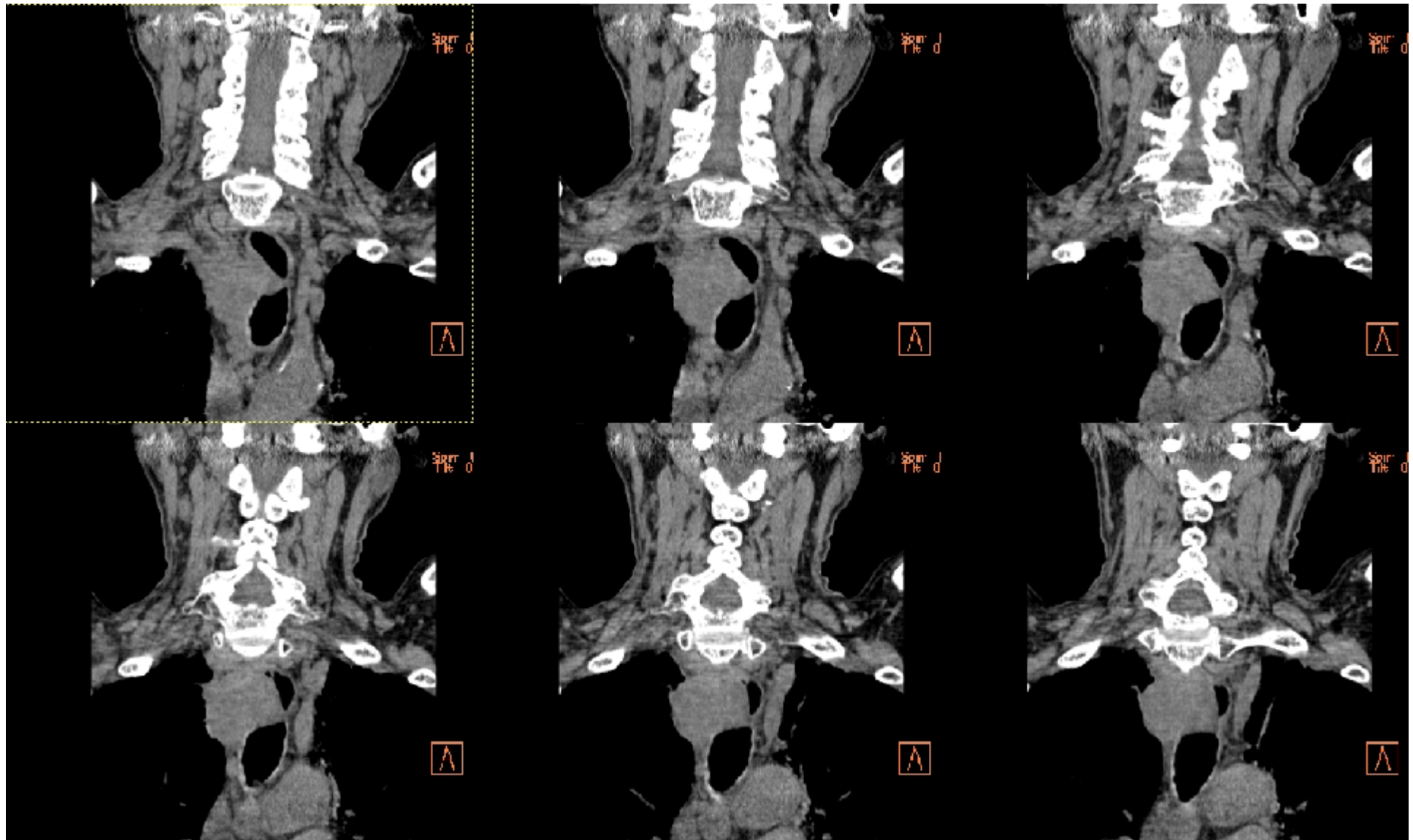
症例4 縦隔リンパ節転移RFA治療 80代 男性

2000年に小細胞肺癌化学放射線治療後。
2005年に左肺尖の腺癌に対し放射線治療
施行。また、右鎖骨上窩リンパ節転移(扁
平上皮癌)に対しても放射線治療施行。そ
の後、CEAの高値持続。2006年1月のPET
検査にて左肺尖背側及び右鎖骨上窩に異
常集積を指摘。

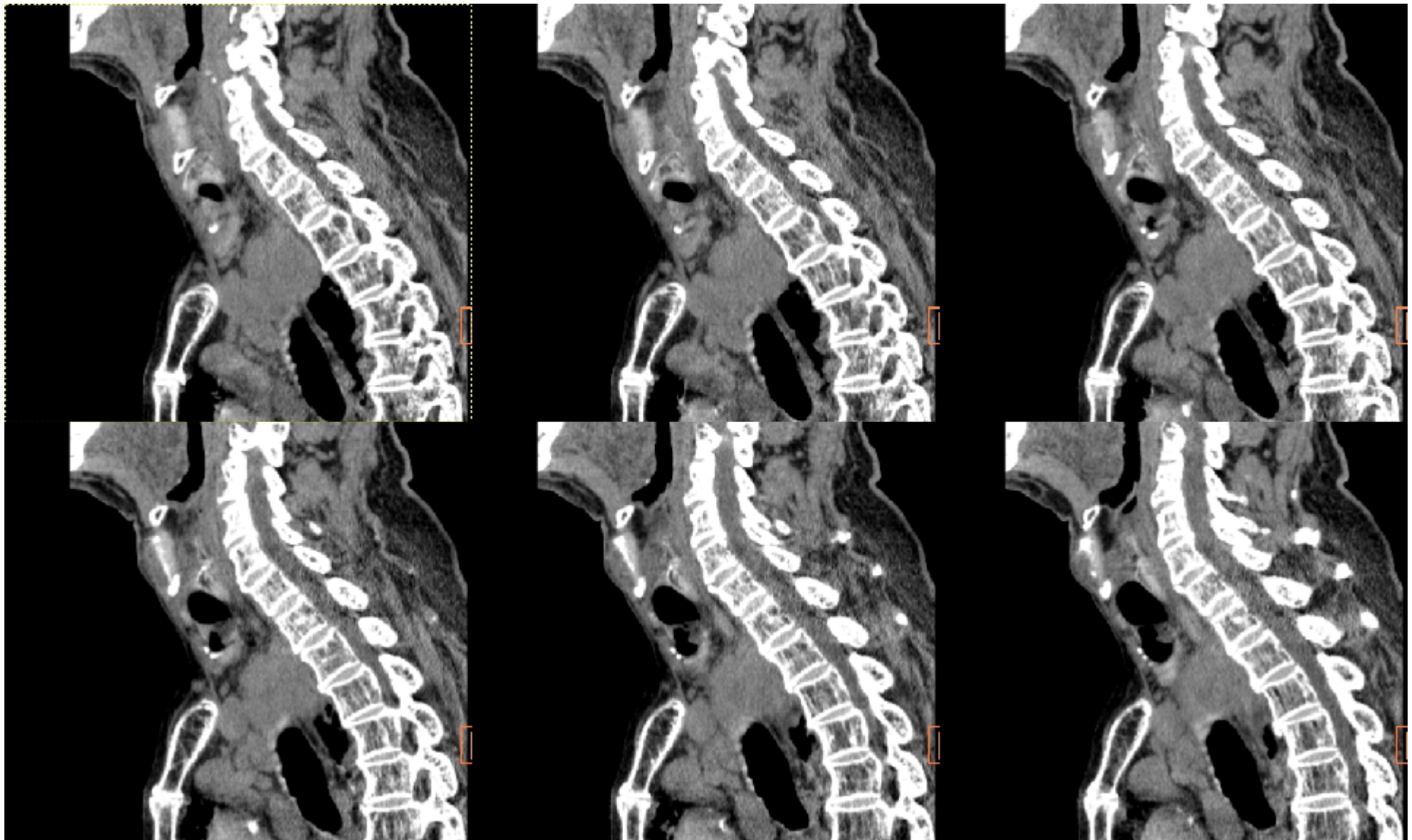
頸胸部CT(2007/1)



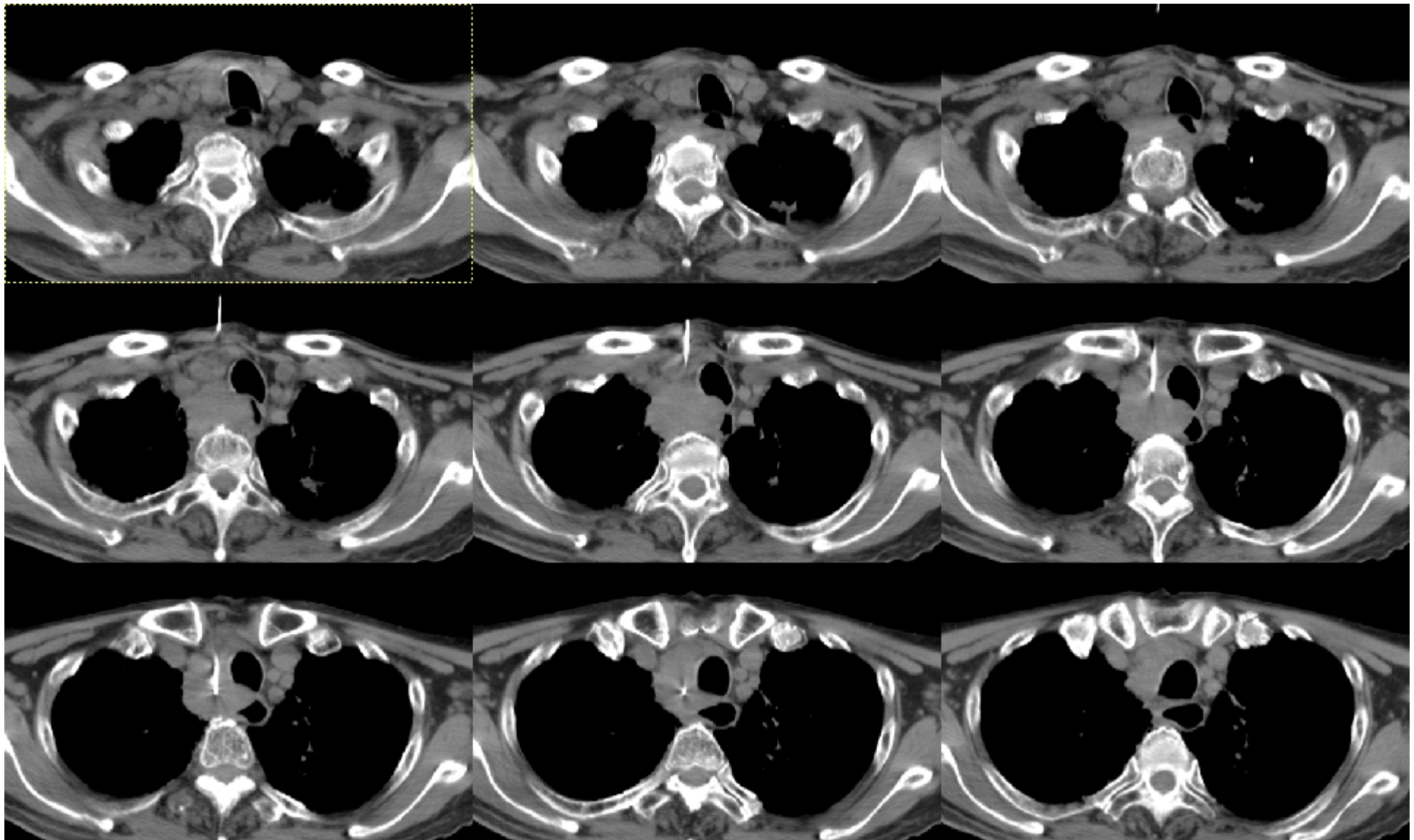
頸胸部CT(2007/1)



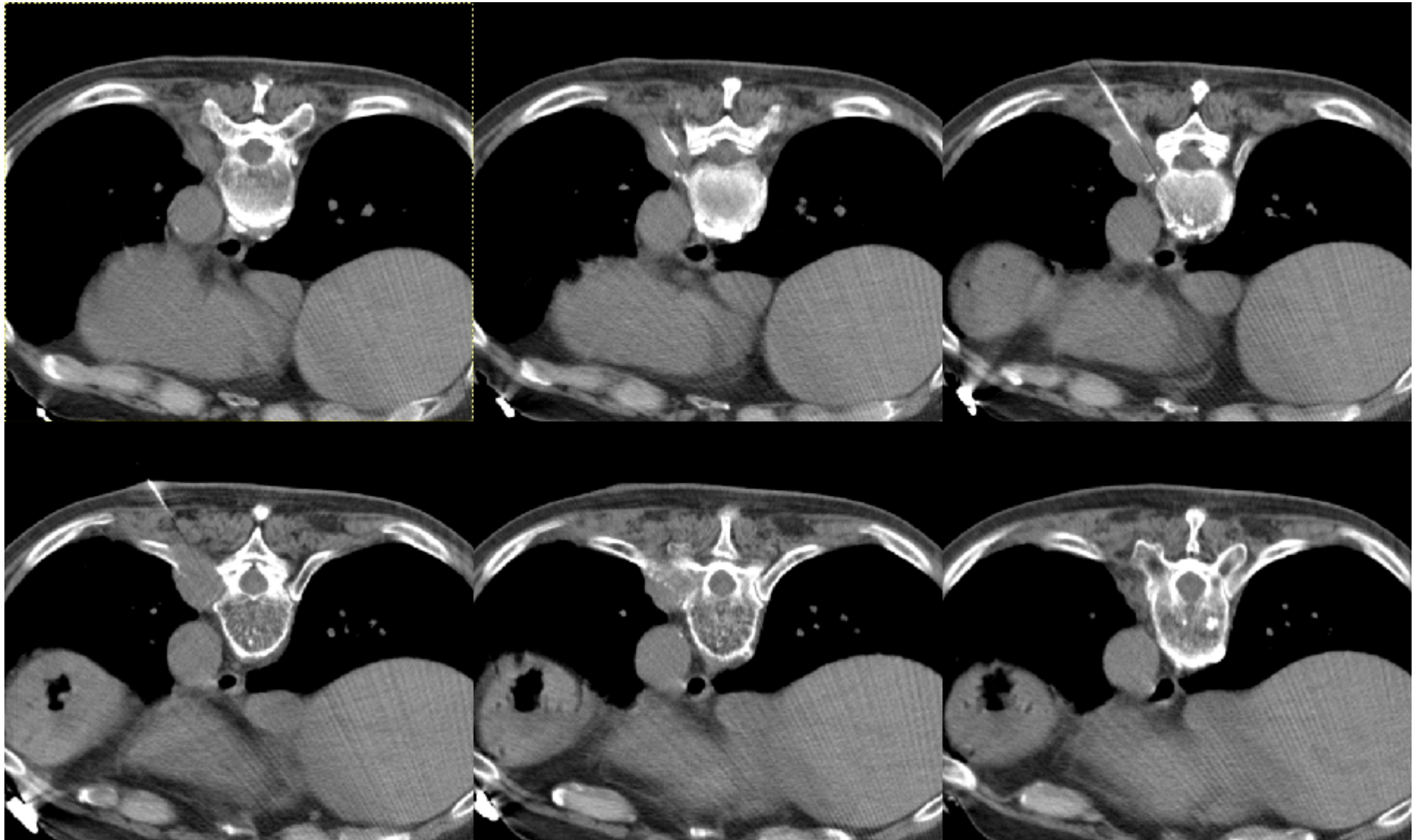
頸胸部CT(2007/1)



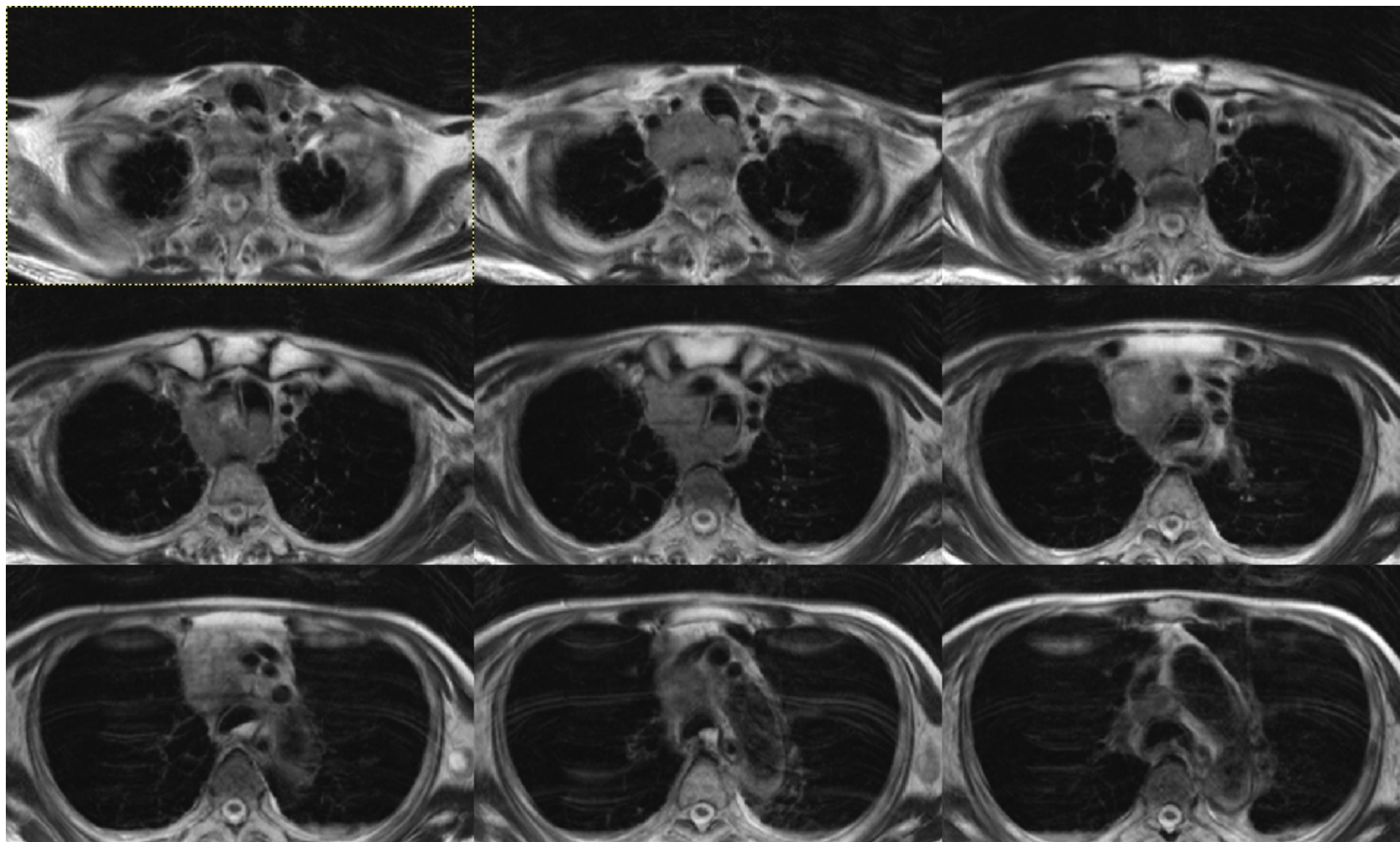
CTガイド下RFA: 右鎖骨上 ~ 上縦隔 (2007/1)



CTガイド下RFA: 左第10肋骨 (2007/1)



胸部MRI(2007 / 4)



質疑応答

肺caの多発転移症例

- 縦隔内リンパ節や骨転移巣に対してRFA による治療を施行した。放射線治療後であり、RFA を選択した。短期間で著明な増大傾向を示しており、縦隔リンパ節に関してはmass reduction 効果を期待した。穿刺に関しては細径針から段階的に広げていくのがよい。
- 気管支動脈からの動注化学療法を考慮されたらどうか？（兵頭先生） 高齢で衰弱が強いため断念した。